

## 八雲病院の機能移転について

当院は筋ジストロフィーや重症心身障害の専門医療施設として専門性の高い医療を行ってきました。

しかしながら、今後の医療の継続については、

- ① 筋ジストロフィー患者及び重症心身障がい（児）者には、高齢化に伴う合併症の増加が見込まれるが、現在の医療機能では対応できる専門科（医）等の確保・充実が困難な状況にあること
- ② 当院に入通院されている患者は、筋ジストロフィー患者の8割が道央・道東・道北から、重症心身障がい（児）者についても5割強が道南から、5割弱は道央等から入院していることや、道外から来院もあるなど診療圏は全道域・全国域となっており、患者家族の長距離移動の負担にも配慮が必要となっていること

などの課題があります。

独立行政法人国立病院機構としては、このような状況を踏まえ、八雲病院の医療機能を継続させるため、国立病院機構北海道医療センター（札幌市）と国立病院機構函館病院に移転し、筋ジストロフィー及び重症心身障がいに対する在宅を含む医療の充実、療養環境の改善を図っていくことになりました。

今後、3～4年後の移転を目途に鋭意準備作業をしていくこととしていますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月5日

国立病院機構 八雲病院長  
石川 幸辰

※ 次ページ基本構想添付

## 八雲病院の機能移転に関する基本構想について

### 1. 基本方針

独立行政法人国立病院機構八雲病院（北海道二海郡八雲町）は、筋ジストロフィーや重症心身障害といった他では必ずしも実施されていないセーフティネット分野の医療に貢献してきた。

しかしながら、筋ジストロフィー患者及び重症心身障害（児）者には、高齢化に伴う生活習慣病などの合併症の増加が見込まれており、現在の医療機能では対応できる専門科（医）の確保・充実が困難な状況にある。

また、筋ジストロフィー患者の8割が道央・道東・道北から、重症心身障害（児）者の5割超が道南から入院していることや、道外から来院する外来患者がいることから、高齢化が進む家族や道外の外来患者の長距離移動の負担にも配慮が必要となっている。

加えて、一部の筋ジストロフィー病棟、外来治療棟及びサービス棟などは、築年数が40年以上経過している。

このような状況を踏まえ、八雲病院の機能を独立行政法人国立病院機構北海道医療センター（同札幌市）及び独立行政法人国立病院機構函館病院（同函館市）に移転し、筋ジストロフィー及び重症心身障害に対する在宅を含む患者への医療の充実、療養環境の改善等を図るものである。

### 2. 概 要

#### (1) 北海道医療センター

##### ① 機能移転の概要

八雲病院の「筋ジストロフィー」に関する機能及び「重症心身障害病床」の一部を、北海道医療センターに移転する。

##### ② 移転後の機能

現在の「神経・筋疾患、がん、循環器病、救急医療等」に、新たに「筋ジストロフィー、重症心身障害」を加え、同センターに「筋ジストロフィー・重症心身障害センター（仮称）」及び「NPPVセンター（仮称）」（臨床研究部門）を設置し、急性期から慢性期、セーフティネット分野にわたる専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の総合的な機能を備えた病院とすることにより、医療機能の向上を図る。

③ 病床規模

病床数 680床程度

④ 主たる機能

(診療)

- 神経・筋疾患、成育、免疫異常に関する専門的な医療を行う
- がん、循環器病、腎疾患、呼吸器疾患等に関する専門的な医療を行う
- 筋ジストロフィー、重症心身障害に関する専門的な医療を行う
- 災害・救急・精神等に関する医療を行う

(臨床研究)

主として、神経・筋疾患、成育、免疫異常、筋ジストロフィーに関する臨床研究を行う

(2) 函館病院

① 機能移転の概要

八雲病院の「重症心身障害病床」の一部を、函館病院に移転する。

② 移転後の機能

現在の「循環器病、がん、呼吸器疾患等」に、新たに「重症心身障害」を加え、急性期から慢性期、セーフティネット分野にわたる専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の総合的な機能を備えた病院とするとともに、道南地域における重症心身障害医療を担う。

③ 病床規模

病床数 370床程度

④ 主たる機能

(診療)

- 循環器病、がん、呼吸器疾患に関する専門的な医療を行う
- 重症心身障害に関する専門的な医療を行う

(臨床研究)

主として、循環器病、がんに関する臨床研究を行う

3. 整備方針

移転に伴う必要な整備を行う（北海道医療センター、函館病院）

4. 移転時期等

3～4年後の移転を目途に調整。

八雲病院の跡地利用については、今後、地元自治体等の意向も踏まえ検討する。